

第7章

寄宿舎の研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

「卒後を見据えた生活力を高める指導」

(2) 設定理由

第7次研究での寄宿舍研究では、自己認知能力、コミュニケーション能力の向上と共に生活の自己管理能力の向上が卒業生に求められる状況から、行動の意義を十分に理解した上で自分らしい生き方を実践できるよう、自己管理能力を高める生活指導を目指し「卒後を見据えた生活力を高める指導」を研究主題として研究を行っている。

昨年度の研究では、コミュニケーションの指導を通して生活力に関わるスキルを向上させることについて検証した。コミュニケーションの指導により、メタ認知や論理的な思考が育ち、意義を理解した上での行動や、言動や行動を振り返ることが身につく、生活力の向上に結びついた。また、卒後に自立した生活を送るためには、自己管理能力をより向上させる必要性が改めて確認された。

近年の卒業生の実態や就労状況からは、グループホームなどの生活の場や職場において他者との関係形成を図ることや、集団の中で協力関係を形成して活動や仕事に取り組むことなど、より高い社会性が求められる。これまでの研究を継続し、生活指導においてメタ認知が育む指導法を検証すると共に、本年度は、寄宿舍での自治活動の場である舎友会活動に焦点を当て、活動の中で他者の考え方や見方を受容できるよう図り、人間関係の確立や規範意識の向上に結びつけ、卒後の生活に必要な能力の育成について研究を進めていく。

(3) 研究の内容と方法

ア 全体研修での共通理解

- ・学校で行われる全体研修会へ参加し、理解を深める。

イ 事例研究

- ・生活部と協議し、新たな舎友会の体制作りを推進し、舎友会活動で育まれる社会性や生活力について考察する。
- ・舎友会活動の様子を記録し、メタ認知の観点から評価を行う。
- ・生徒に行事などの活動後、振り返りを行わせる。
- ・舎室活動及び室長の実態について各室担から集約し、全体で考察する。

(4) 推進日程

- 5月・・・対象生徒抽出、舎友会活動の記録
- 6月・・・グループ協議、寄宿舍研修会議（全体発表・協議）
- 9月・・・グループ協議（指導経過）
- 10月・・・寄宿舍研修会議（中間発表・協議）
- 1月・・・グループ協議（結果及び考察）
- 2月・・・最終報告

2 研究の実際

(1) 舎友会の取り組み

ア 舎友会で育む力

舎友会活動では、自主性や協調性を育成すると共に、寄宿舍生活を意義あるものにしていこうとする意欲を培うことができる。舎友会活動において、生徒が何らかの形で役割を分担し、健康で安全な寄宿舍生活を送るようすることが生徒の社会性を高める上からも必要であり、寄宿舍における種々の役割分担を通して身につける態度・技能は、将来に渡り、社会参加・自立のための力を培うことに結びつくと考えられる。

イ 舎友会の整備

今年度は、昨年度までの業務は引き続き行うが、より生徒が主体となって活動できるよう、舎友会の体制作りや業務内容の精選を行った。

○昨年度までの舎友会業務

- ・各室長から議長、副議長、書記の選出
- ・各行事の実行委員の選出
- ・月別の寄宿舍目標の設定および反省
- ・月別の朝点検者選出
- ・ペットボトルキャップ（エコキャップ）の収集と寄贈

○今年度の舎友会の体制

- ・舎友会～舎生から役員（議長1名、副議長1名、書記1名）を選出する。役員は月に1回行われる室長会議にて司会・進行・記録を行う。舎友会は舎生一人一人の意見を反映し、自主的な自治活動を通して、社会的なルールやマナーを身につけ、高校生らしい明るさとけじめのある集団作りを行うことを目的とする。
- ・部屋活動～室長を中心に、部屋のメンバーが協力し、明るく楽しい生活の場をつくる。
- ・係活動
 - 文化係～各行事の実行委員を選出し、行事を通して協調性、自主性を身に付ける。
町内行事への参加呼びかけを行い、地域交流を深める。
余暇物品の確認、整理整頓を行いきれいな生活の場をつくる。
 - 生活係～月別の目標を設定し、基本的生活習慣と自己管理能力を身に付ける。
登校前に点検を行い、適切な身だしなみを身に付ける。
 - 環境保健係～舎内の共有箇所の掃除道具のチェックを行い、寄宿舍の環境美化に努める。

○今年度からの業務内容の追加

- ・町内行事への参加呼び掛け
- ・余暇物品の整理整頓
- ・舎内共有箇所の掃除道具棚のチェック

(2) 実態の整理および手立て

ア 室長の実態及び舎室活動の状況

舎友会活動の中心的役割を担う室長について、舎友会活動に関わる実態を集約した。各舎室から以下のような実態が出された。

- ・室長として意識して行動できている。
- ・同室生徒の意見を吸い上げている。
- ・室長会議へは意欲的に参加している。
- ・他の室長と適切な関わりができている。
- ・他生徒も室長として部屋の活動の際に相談している。
- ・他の室長と事前に内容を確認したり、意見を交換しながら参加している。
- ・他生徒と思うように話すことが難しい。積極的な関わりは見られない。
- ・本人はできているが、他生徒への働きかけは見られない。
- ・自覚はあるが、見本となるような行動はできていない。
- ・室長間で、普段の生活からは関わる様子が少なく、協力することが見られない。

以上のことから、ほとんどの生徒が室長としての立場を理解し、意欲的に室長会議に参加している。しかし、日常生活では見本となるような行動ができていない場面や、自分自身の活動は問題なく行えていても、立場に応じた他生徒への関わりやリーダーシップの発揮には至っていない様子がみられる。

今後は、室長として意識を持った行動が舎友会活動以外でも見られるよう、自分自身の行動の振り返りや客観視をして評価できるよう働きかけていく必要がある。

イ 室長会議の状況

室長会議の様子について、メタ認知測定尺度を参考に評価シートを作成し、記録している。（別紙1 参照）

注意や行動制御の観点からは、問題なく会議に参加できていた。プランニングやモニタリングの観点では、率先して議題に取り組む生徒もいるが、どのように取り組むか見通しをもつことが難しい様子の生徒もいた。今年度は、新しい活動となって間もないことから経験不足の面も見られるが、今後、理解が進むことで、取り組み方に深まりが出るものと思われる。そして、行事後、生徒に振り返りシートを記入させ、それぞれの自己評価や取り組みについての考え方について探り、考察を進めていく。

（3）指導の経過

ア 舎友会の取り組み

前期までに、舎友会で行った取り組みについては、

- ・毎週の取り組み～朝点検（週2回）
- ・毎月の取り組み～室長会議、月毎の目標設定・反省、余暇物品の確認・整理、衛生消耗品の確認及び補充
- ・役員の選出（5月）
- ・係の割り振り（5月）
- ・町内行事参加の集約（春らんまん祭り、町民運動会）
- ・秋祭り実行委員会への参加
- ・ぴりか祭（6月）～実行委員の選出、ゲームの考案、ポスター作成、準備、司会進行、片付け
- ・すっきりサークル～内容決め、掲示内容考案

である。

年度当初に舎友会の新体制として、考えていた取り組む内容については実施できている。取り組みの中で、当初考えていたよりも生徒が主体的に行うことができおり、任せる役割も多くなっている。また、町内行事の秋祭りでは、舎友会代表の生徒が計画段階から参加し、寄宿舎以外の場所で職員以外の他者と活動を行い、関わりについての実践的な経験をすることができた。

イ 舎友会活動の状況

舎友会活動は月に1回の室長会議の中で各係分担のもと、生徒の意見や発案を尊重し、できる限り生徒主体で実施できるようにし、職員は助言や補助的な役割に徹して推進している。

係分担を明らかにしたことで、役割が分かり目標を立てたり、寄宿舎で改善したり、したいことや取り組みたいことなどが生徒からも意見として発信できるようになり、意欲向上につながっている。

発言できる生徒は増えてきているものの、偏りも出てきている。発信ができるようになった生徒は、同室生徒への発信もできるようになってきているが、発信が少ない生徒については同室生徒に会議内容が届いていない状態もある。また、今までは自分を中心になって活動することが多かった生徒も、他生徒のフォロー役に回れるようになるなど周囲の状況を判断する力もついてきている。

ぴりか祭後に実施したアンケートでは、できている評価は上がってきたが、改善点は挙がってこなかった。昨年までの舎友会活動と同じ内容で行事は実行できたが、職員が思う室長像と生徒が思う室長像にギャップが生じてきている。行事後にアンケートを行うことで、改善への意識付けを図っていく。(別紙2参照)

今後は、提案したことを実行し、実現する経験、そして改善できたという経験を積ませ、自分自身の行動の振り返りや客観視して評価できるように働きかけていく必要がある。前期室長を務めたことでの、自分自身の行動や考え方の変化など客観的に振り返りができるようアンケートを行い、今後の舎友会活動につなげていく。

ウ 室長、舎室活動の状況

室長及び舎室活動について各室担から実態について抽出してもらい、各棟で協議を行った。

室長の様子からは、舎室の雰囲気をよくしようと考えての行動や下級生の整頓状況を確認して教えている様子や時間に遅れそうになっている生徒に声をかけている様子、共有箇所を整理する様子などが見られた。年度当初から室長に当たっているそれぞれの生徒に、室長としての自覚は感じられていたが、前期の舎室活動を通し、年度当初よりも積極的な行動が見られ、例年に比べて、舎室における室長の存在感が強く感じられる部屋が多く見られる。特に、決まりやマナーに違反している生徒への言葉掛けや共有箇所の整頓を自主的に行っている様子があることについては、舎友会活動の業務の広がりや深まりが、室長としての責任や集団生活の場における自治的な意識の高まりにつながり、行動に結びついているものと思われる。

課題としては、室長以外の生徒は、舎友会の一員であるという意識を持つには至っておらず、寄宿舎の雰囲気から、仲良く活動しているが友達意識で関わっていることが多く見られ、先輩後輩関係の希薄さも感じられた。今年度の取り組みをさらに進めることにより、親しい関係性の間であっても、挨拶や敬語などマナーの面で上級生に対する関わり方の意識を高めることにつながると考える。

また、10月に後期の室長へ交代となる。前期室長を務めた生徒が室長という立場ではなくても自治的な意識を維持し、舎室活動においてサポートを行えるよう見ていく。後期室長を務める生徒は、初めて室長となる生徒が多いが、前期の舎友会活動の継続性をもたせて役割を担わせ、多くの生徒に舎友会の一員としての意識が広がるようにし、社会性の向上を図っていく。

(4) 指導結果

ア 舎友会活動の状況

舎友会の係活動では、生徒が主体的に行うことが年度当初よりもスムーズにできるようになり、活動について積極的に意見を出す様子や意見をまとめようと協力して考える姿があり、室長会議の内容に深まりが見られた。また、10月には、後期の室長への交代に伴い、前期室長と後期室長参加の室長会議を実施し、前期室長主体による引継ぎも行った。その際にも、前期室長からこれまでの活動の経験を踏まえた活動のポイントが伝えられ、自分達の手で寄宿舎を良くしようという自治的な考えの高まりが見られた。

後期室長については、今回初めて室長を担う生徒が多く、まだ主体的に活動することが難しい生徒もいるが、前期の活動をベースに会議や係活動を進めている。

舎友会全体については、全寄宿舎生を対象に、今年度からの舎友会活動についてのオリエンテーションを実施した。室長以外の生徒にも、今年度からの室長の役割や舎友会の組織や活動などについて改めて知らせ、寄宿舎生全員に舎友会員としての自覚を持たせること及び、舎友会活動の内容の理解を進めた。

本年度、新たに舎友会について整備、業務の追加、精選を行ったことで、昨年度までの舎友会活動から活動に広がりや深まりが出て、中心的に携わる生徒には責任感や自治的な意識をこれまでよりも強く持たせながら役割を担わせることができた。また、生徒主体で活動させたことで、室長会議や活動の中で、周囲との協力や協調、集団における自分の役割や立場を意識する様子もみられた。課題としては、舎友会の一員であるという意識に生徒間で温度差があること。また、舎友会活動の業務内容が多岐にわたったため、全ての活動や話し合いに職員の目が届かないことや時間が足りないこと。生徒主体での活動の増加を求める生徒がいる一方で、活動内容が複雑化したことで中心的に活動することが難しい生徒もいたことなどが挙げられる。課題に対しては、舎友会を意識させる役割の設定や舎室全体、棟全体を巻き込む活動の設定など、新たな取り組みや推進の仕方を工夫し改善を図っていきたい。今後も舎友会について考察をしていき、生徒の社会性の向上につながる体制、運営を築いていきたい。

イ 室長、舎室活動の状況

前期室長の任期終了に伴い、前期の室長としての活動及び舎友会活動について振り返りのアンケートを行った。(別紙3参照)それぞれ室長として自覚を持って活動したと実感しており、舎室活動での率先した行動だけではなく、普段の生活から他生徒の見本となるよう意識したとの意見が見られた。また、会議や活動の場でも自分の意見を主張しながら、相手の意見を取り入れるように考えたり、場を考えて行動したりすることを意識したという回答が複数見られた。

各舎室担当の職員から今年度の室長の変化及び舎室活動について抽出してもらい、各棟に分かれて協議を行った。

室長を担ったことによる成果については、他生徒の意見を聞いたり、部屋の意見をとりまとめたりすることができるようになったことや部屋の状況を捉えて行動したり、立ち振る舞いができたりしたこと。思いを伝えたり、分からないことを聞いたりすることができたことなどの発信ができるようになったことが挙げられた。このように全体のことを考えての行動や発信力の高まりの現れとして、自発的に毎月行われている棟指導の内容を取りまとめ、記録する生徒も出てきた。記録した内容については、生徒が振り返りできるよう棟内に掲示し活用している。(別紙4参照)

昨年度から継続し、メタ認知を育む指導に取り組んで研究を進めており、舎室での活動や他生徒との関わりで、自分の行動や考えを客観視してコントロールしている姿が見られ

るようになってきた。さらに今年度、舎友会活動に焦点を当て、舎友会活動や室長としての責務を意識するように働きかけたことから、客観視できる段階が広がり、直接関わっている相手だけではなく、寄宿舍全体での視点をもって考えたり、行動したりすることになり、規範意識の向上や主体的な生活態度の改善や環境の整備に結びつく生徒が見られることになったと考える。実態の違いや舎室の状況の違いもあり、変化の少ない生徒もいたが、今後、今年度の取り組みを進め、役割の持たせ方など指導法を改善、検討していき、社会性やメタ認知を育成し、卒業後の実践的な生活力に結びつくように図っていく。

3 成果と課題

全体研修会には研修部員が参加し、寄宿舍全体に研修会の資料や記録をもとに伝え、個々で理解を深めた。

事例研究では、前年度までのメタ認知の育成を踏まえ、舎友会活動に焦点を当てて社会性の向上についての研究を行った。舎友会活動を通した取り組みから、自治的意識や協調性の高まり、客観視の広がりへとつながり、日常生活における規範意識の向上や人間関係の確立について成果が見られた。生徒主体での取り組みという観点では、課題研究で取り組まれている共同学習とも関連しており、学舎での指導により、主体的に活動する意識が身に付き、成果に結びついたと考えられる。しかし、舎友会の取り組みや在り方には課題もあり、改善が必要である。また、取り組みで育んだスキルが、卒業後の職場、生活の場で必要なスキルに直結されたかについては今後も検証するとともに、舎友会活動を含め、指導内容と指導方法について検討と実践を継続していく。

室長会議評価					
			会議日:		5月31日
			評価者:		竹端
	検査項目	評価の主旨	評価		
1	注意	説明を聞く際に注意して聞いているかどうかを判断	説明を注意深く聞き、よそ見などはしない。	説明を聞いているが、よそ見が見られる。	全く説明を聞いていない。
			○		
			ほとんどの生徒がよそ見をせず、聞いている。プリントを注視するのみで、話を理解しているのかが不明な生徒がいた。		
2	行動制御	勝手に行動しないかどうかを判断	指示を守って行動している。		指示が守れず、勝手な行動が見られる。
			○		
			席の移動、話し合いなど指示に従って行動している。自分の名を名乗って挙手する場面では、名前を名乗らない生徒がいた。		
3	課題の解決方略(プランニング)	課題解決の適切な方略が出せるかどうかの判断	望ましい適切な方略を出せる。	適切ではないが、何らかの方略を出せる。	何らの方略も出せない。
				○	
			代表者の選出では、立候補者を優先に決定していた。話し合いに積極的に参加していない生徒もいた。		
4	課題の実行予測	どこまでやれるかの予測生を判断			
5	モニタリング	課題遂行中にモニタリングしているかどうかを判断	モニタリング行動があり、その都度チェックしている。	モニタリング行動があるが、チェックが不十分である。	モニタリング行動がない。
				○	
			他グループの状況や決め方を確認している生徒が見られる。		
6	努力	課題遂行中に努力しているかどうかを判断	終了までまたは終了直前まで頑張っている。	最後まで頑張れない、難しいという内省がある。	最後まで頑張れない、難しいという内省もない。
			○		
			会議中、私語などなく参加していた。		
7	実行の評価	課題遂行後に自己評価しているかどうかを判断	再確認などの評価行動があり、間違いを訂正している。	評価行動があるが、チェックが不十分である。	評価行動がない。
8	失敗数の予測	失敗数の予測生を判断			

室長会議 生徒の様子			
		5月31日(水)20:00	記録: 竹端

・議題1 目標の反省
棟毎に反省について問いかける。
男子は、積極的に発言する生徒が限定される。
女子は、積極的に発言する生徒数名が次々発言する。
発言できる生徒とそうでない生徒との差はある。
発言のない生徒も真剣に聞いていた。
言葉遣いについては、会議にふさわしくない言葉や敬語ではないことがある。

・議題2 舎友会の係分担
職員が説明し、問いかけるも答えはまばらのことがあった。初めての内容で見通しを持つのが難しそうな生徒もいる。
理解しようと真剣に聞いている。
係の立候補には、積極的に挙手しており、人数の少ないところを考えながら挙手している。

・議題3 各係長、議長、副議長、書記の選出
各係の生徒同士で5分間話し合いをさせ、代表を選出させる。積極的な立候補がみられ、重複することもなく、スムーズに選出される。
係長間で議長などの選出を話し合わせる。やりたい役職を優先し、スムーズに決まる。

(今後の課題)
・舎友会の業務が増え、高度になると、積極的な参加が難しい生徒がでてくるおそれがある。
・室長としての心構えは、それぞれ真剣に参加している様子から感じられた。代表会議という理解と自覚を持たせ態度や言葉遣いを身につかせる。

ぴりか祭を終えて

実行委員のみなさん、ぴりか祭での役割お疲れ様でした。今回やってみた感想などを聞かせて下さい。

①実行委員の間で、協力や役割分担でよくできたところは何ですか？

話し合いができた。

②実行委員の間で、協力や役割分担でむずかしかった(うまくいかなかった)ことは何ですか？

無し

③実行委員の仕事で、やる前に難しいと思っていたことはありますか？

話す時にかまない所が難しかったです。

④実行委員の仕事で、工夫や準備をしたことはありますか？

かみやすいので、話す時にかまないように工夫しました。

⑤実行委員の仕事でうまくできたと思ったものは何ですか？

盛り上げるころができた。

⑥実行委員の仕事で難しかったものは何ですか？

無し

⑦難しかった仕事について、次はどのようにすれば良いと思いますか？

本番で緊張しないように練習する

前期舎友会活動についてのアンケート

室

氏名

前期室長としての活動お疲れ様でした。活動を振り返ってみて意見や感想を教えてください。

① 室長会議や係活動で工夫したことや頑張ったことは何ですか？

今年から係活動となり、新たな形でスタートしたので、その中の文化係だ。た
ので、行事をみんなに楽しんでもらえるように特に力を入れて頑張りました。
文化係では、リーグをやり全体を通して副議長をやりました。副議長のやること
はあまりありませんでした。どちらかまてめる役割だ。たので、説明の言葉を考え
て、どうしたら相手に伝わるかを毎回考えるからやっています。

② 行事を行う上で工夫したことや頑張ったことは何ですか？

準備の時、どのような余興をやろうみんなが楽しめるか、どうしたら行事が楽しく盛り
上がるか、スムーズに進めるためにどうするかを考えました。

③ 舎室の活動で工夫したことや頑張ったことは何ですか？

清輝の割り振りや、新1年生が入学してきた時に、どう説明したら分かりやすく伝えら
れるか、室長として先輩として後輩の悩みを聞いてあげたことなどです。

④ 今後の舎友会活動で改善した方が良いことはありますか？

・文化係の行事の司会で、今現在文化係にな、大人たけとな、ていすか、他の係
でもやりたい人がいるかもしれないので、希望を取っておいてもいいかもしれません。
・環境保健でスリキサークルで何をやるかを考えていますか、何をやりたいかを全員にアンケート
を取ってみるのもおもしろいかもしれません。

⑤ 室長として、意識したことは何ですか？

・基本中の基本ですが、忘れ物をしない、寝坊をしない!!
・何かあったら話を聞いてあげる。
・声掛け
・周りを見る。

No. H29

Date 9

指導 (9月)

<交際祭について>…友達同士!

→人の女嫌な思いはさせない!

①仲間はずれ②いじめる③悪口④乱暴な言葉⑤暴力⑥体を角める 等

※自分が女嫌なことは相手にしない!!

<男女交際について>…異性

①思いやりと尊敬の気持ちをもつ

②話をする時は、適切な距離をとる ←近づきすぎるのは、ダメ!!

③2人で人のいない場所には行かず、皆がいる場所で話をする。

④お互いに体を角虫らない

⑤交際を始める時=室担・学担の先生に相談する。

禁止されているもの

→物のやりとり

具体的:おやつ

:物のかしかり(CD・ウォークマン・ゲーム 等)

→先生の許可なしに貸し借りはしないこと!!

許可

→電話番号・メールアドレス・年賀状

→学担・室担・保護者の許可が必要。 ※勝手に判断した交換はしないこと!

<連絡各>

①忘れ物

→8月…161件

9月…191件

②その他

→1年生が先輩(2・3年生)に対する言葉遣いが、乱暴

→1年生がルールが多い、と言っていますが、ルールが守れるような大人になってほしいので、ルールを守れるような行重カをしてほしいです。